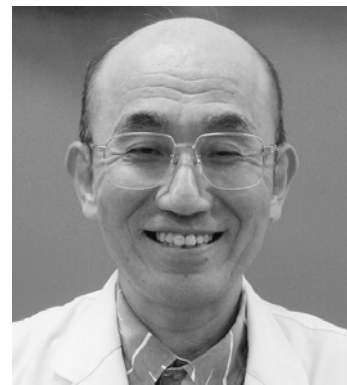


## 提 言

## 多様性と小児保健の役割

宮城雅也 (沖縄県小児保健協会)

新人類が誕生してから20万年になりますが、人類の進歩で、ここ数十年の進歩は目を見張るものがあります。特に科学の進歩は、指数関数的な速さになっており、正しい方向に利用できて現人類に未来が確保できると思います。古代文明は、繁栄後に崩壊と滅亡を迎えています。その原因をしっかりと理解しないと未来へとは繋がりません。文明が発展していくと、都市が発展し人口が増え、社会構造が複雑化してくると、数々の難解の課題が出現してきます。そこに解決策が見つからない時に滅亡となるのです。古代文明は地域でしたが、文明を滅亡から救うのは「閃き」がなかったためだといわれています。複雑化が進むと数々の弊害が発生し蓄積され崩壊に繋がります。今はグローバル化し一つの世界文明となっており、人類を救うには複雑さを単純化できる「閃き」が必要となります。



社会構造が複雑化したためか、持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標は、多すぎて個人で何ができるかを把握しきれません。目標3は保健となりますが、他のSDGsの16目標を達成したときに、はじめて一人一人の最大限の健康に結びつき目標3の保健が達成でき、「誰一人とり残さない」、目標3の保健に繋がります。我々小児保健関係者は、本来医療・福祉・教育を繋げることができますが、小児保健におけるSDGsの手段としてどのような「閃き」を提言できるのでしょうか？それは胎児期から成人期まで繋がる子育て支援包括支援センターでの未来指向の考え方と実行だと思えます。

子育て世代包括支援センターは、ポピュレーションアプローチであり、すべての個々を大切に胎児期から成人になるまで見守っていくことで、支援する方も支援される子ども達もSDGsの理解が進み、SDGsを達成する人々が育ち、次へと繋がっていきます。子育てのイノベーションと考えていいと思います。子育て世代包括支援センターは、個々を大切にすることであり、多様性を重んじることとなります。学校教育も50年前とは違って、個性を大切にしていこうようになりました。反面多様性を重視することは、複雑さを増し対応も困難となってきます。小児保健は、多様性に対応した成長を見守る「閃き」のある政策提言を行っていかねばならないと思います。

個々の多様性を重んじることは、権利とは逆に義務も生じます。それは自分以外の人の多様性も重んじてあげることです。金子みすゞの「みんな違って、みんないい」の詩の中には私とあなたではない「あなたと私」の精神が流れているのです。それはあなたがいて私がいる心で、多様性を重んじることに繋がります。人としての基本的姿勢を育てることで現在の課題が解決に近づくとおもいます。

コロナ禍となり、感染症専門家の意見が政策にも反映されるようになりましたが、それには、保健所など保健に関わる人々の意見が、医療・福祉・教育を結び付け、誰もとり残さない精神で国策を動かしていいと思います。多職種でなりたつ小児保健の会員の皆様の意見が、国・地方での政策に反映できる機会を今回は学んだと思います。小児保健関係者の閃きのある政策提言に期待してまいります。